

## ワークショップ「水難救助」WS1-5 「水難救助」としてDAN JAPANの取り組みの 1報告

廣谷暢子

[DAN JAPAN ホットラインオペレーター]  
亀田総合病院 ME室

### 【DAN JAPANとは】

「DAN JAPAN」は、1992年（平成4年）1月に発足した、レジャー・スクーバダイビングの安全性の向上を目的とした団体で、全世界で4つの「DAN」（インターナショナルDAN=IDAN）が連携して活動している。日本では一般財団法人 日本海洋レジャー安全・振興協会が公益事業として運営している。DAN JAPAN会員は現在約9,000名で、世界的には会員数は他の地域のDANとあわせ20万人を超えてています。

スクーバダイビングは、水中という特殊な環境下で行うレジャーで、そのため、潜水事故を防ぐための「正しい知識」と十分な「安全対策」が必要となる。万が一、減圧障害を発症した場合の対応には、「潜水医学に精通した医師の診察」及び「再圧治療施設等における治療」が必要となることから、早期に治療できる体制を構築するため活動を日本で開始した。

会員制で運営しており、ダイビングにおける安全推進と事故の未然防止を目的に、緊急ホットライン等の医療関連サービス、レジャーダイビング保険、安全情報の提供、酸素ファーストエイド等のトレーニング、研究等を通じて、安全と安心をサポートしている。

### 【緊急対応として】

浮上後に異常を認めたレジャーダイバーに対し、現在、4名のオペレーターが24時間365日体制で、ヒアリングシートを用いて情報を聴取して受け入れ可能な再圧治療施設の紹介等の緊急事態に対応している。また、2名の減圧症専門医師の支援を得て、応急手当・主治医に対する治療アドバイス等を行っている。

減圧症の発症が疑われる場合は、軽症／重症を問わずホットラインに連絡して、問題ありません。

特に受傷者が呼吸困難や意識不明状態にあると思われる場合は、緊急案件として119番や118番に連絡した後に、ホットラインへ電話して頂くようにした方が良いとしています。会員本人が意識不明など、現場で電話が出来ない場合は電話対応が可能な方がDAN緊急ホットラインに連絡してください。

### 【対応中の問題点】

我々、オペレータが施設紹介に関して困惑している事項

をどのように対処していくべきか。

- ・日本高気圧潜水医学会（以下、学会）の施設アンケート情報を基に対応可能な施設の紹介を行っているが、緊急で潜水専門の診察や治療が可能な近場の施設をダイバーが希望されても応ずることができない事例が多い。（ダイビングスポットの周辺に専門施設が無い。また、施設での対応は規定されていない、現状がある。）
- ・減圧症の治療後も経過観察が重要なため、事後ダイバーに後追い連絡して振り返りをしているが、連絡がつかない事例はしばしばある。（残存症状等、見守らなければならぬ事例がある。）
- ・治療対応施設への情報提供あるいは治療後の情報収集をルーチンには実施していない。
- ・救急隊と連携した事例はほとんどない。

### 【発展案として】

緊急対応は減圧症治療がおこなえる施設紹介が主な目的であるが以下の発展案を提唱したい。

- ・紹介した再圧治療施設と事後の振り返りを行い、学会のデータベース委員会と連携して緊急時に利用できる施設情報の収集に協力していきたい。
- ・学会の減圧障害対策委員会と連携して、緊急時のダイバー及び救急隊、救急受け入れ対応施設、再圧治療施設への情報提供や支援の態勢を整えたい。
- ・DAN JAPANではダイビングに理解のある医師のボランティアネットワークとしてダイバーズドクターネットワーク（DD NET）を構築しているが、緊急時対応の医療資源としての可能性を検討していきたい。
- ・オペレータにとって相談窓口が広がることは、紹介施設の安定化が望める。また、DD NETの協力体制が構築されれば、より気軽に相談できる体制となる。